

第5章 おわりに

第5章 おわりに

当センターで行われている離職者訓練用訓練課題に関する調査研究報告として、本調査研究の5カ年の取り組みをまとめ、これまでの訓練課題の整備及び活用状況と訓練課題の活用率を向上させるための訓練課題の見せる化の取り組みについて報告した。最終年度となる平成26年度までに、3系（機械系、電気・電子系、居住系）の評価課題を概ね整備することができた。また、訓練課題の見せる化として取り組んだ訓練課題毎の訓練情報が確認できるキャラクターシートの考案により更なる活用の向上も期待される。

今後は訓練課題の更なる利活用のあり方を検討する必要がある。本調査研究では、システム・ユニット訓練において習得度測定が実施される「訓練到達目標（1システム）」や「仕上がり像（3システム）」に対して訓練課題の整備を行ってきた。しかしながら、今般の技術革新などに伴う人材ニーズの変化に対応するため、地域ニーズや生産現場の技能・技術などの変化に応じて、訓練科やカリキュラムモデルの見直しが逐次図られている。そのため、「訓練到達目標」や「仕上がり像」も変更となり、その都度、多大な労力と時間をかけて訓練課題の開発及びメンテナンスが行われている。そこで、例えば、現在整備されている訓練課題を技術要素毎に整理しなおし、その技術要素を組み合わせることで新たな訓練課題を開発することで、弾力的かつ即応的に訓練科やカリキュラムモデルの見直しに対応できると考えられる。その結果、整備の効率化を図ることが可能となり、更なる利活用の向上も期待される。

また、訓練課題を利活用した就職活動支援ツールの開発、例えば、習得度測定結果や実技課題の成果物だけを就職活動に活用するのではなく、ICT（Information and Communications Technology）を活用し、実技課題への取り組み姿勢や受講生の技能を映像で記録、就職支援ツール化して、受講生の習得スキルの見せ方を工夫することで訓練課題の新たな利活用方法が考えられる。そのことで、受講生の就職活動を意識した訓練課題の開発が行われ、訓練課題の品質向上にも繋がり、更なる利活用の向上も期待できると考えられるのではないだろうか。